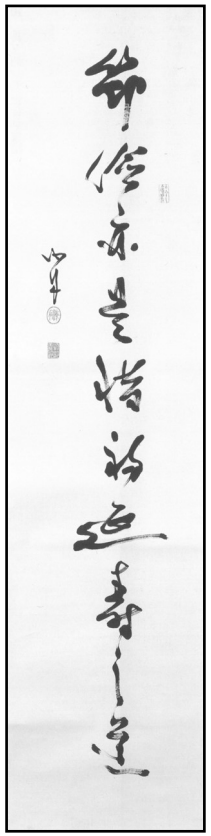
2023年 ふくやま書道美術館催物案内　7月

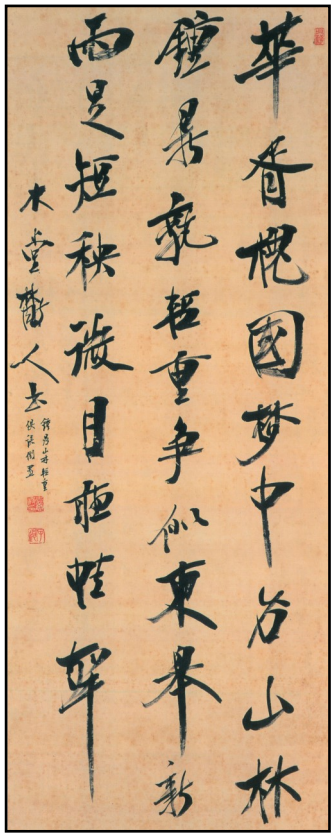
日	曜	常設展示室・展示室
1	土	第70回福山市美術展覧会　(展示後期を7月2日(日)まで開催中)
2	日	
3	月	
4	火	7月4日～7月6日まで，展示替えのため休館
5	水	
6	木	
7	金	夏の所蔵品展Ⅱ
8	土	
9	日	
10	月	**「日本の書画　― 幕末から現代」**
11	火	
12	水	**会期：2023年7月7日(金)～8月20日(日)**
13	木	休館日：月曜休館
14	金	※ただし，7月17日(月)と，8月14日(月)は開館，7月18日(火)は休館。
15	土	
16	日	会　場：常設展示室・展示室
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	

展覧会内容

幕末以降，西洋文化の流入により沈滞していた書の分野は，明治中期頃から新しい流れの中で漢字・かなともに一気に活気づき，昭和へと受け継がれました。本展では，幕末の文人画家，歌人などの書から，現代書道界で活躍した書家たちの書を通して，個性豊かな近現代の日本の書を紹介します。



勝海舟《草書五言二句軸》



犬養木堂《行書七言絶句軸》

ちょこっと知ろう！幕末から現代の書

今回の展覧会は幕末以降の日本の書道作品を展示します。そもそも…**書の幕末から現代**ってどんな変遷があったのでしょう?ちょこっと見てみましょう!

まず江戸時代までは書をする人と言えば天皇・貴族・高僧など位の高い人たちが中心でした。三筆(さんぴつ)，三蹟(さんせき)の書を学ぶことが主な学習方法で，特に江戸の流行としては御家流(おいえりゅう)(室町時代の尊円親王(そんえんしんのう)の書流)を習得することが基本でした。しかし明治以降，書を生業(なりわい)とする人達・書家(しょか)が出てきます。その人達は日本・中国の書の技法・論理の研究を始め，「書道会」を誕生させます!また，各会がいくつか結びつき「書道団体」となるのです。さらにその団体を柱として「書壇(しょだん)」が形成されていきます。そんな活気に満ちた書壇も第二次世界大戦をはさみ，壊滅。敗戦後はGHQにより毛筆習字も禁止されてしまいした。しかし，当時の書家の働きがけで毛筆文化が復活!! すると，書壇も急速に復興へ向かうのです!戦後はエネルギッシュに続々と新たな会が生まれ，社中展や公募展などを中心に活動が活発になります。そして，それらの活動は今でも続いているのです!例えるならば…江戸までは相伝型の限られた人のみに使われる書流として。そして，明治以降は輪のように広がりを持ち，誰でも志があれば参加できる会へ，幕末から現代の書は，**「書の門が開かれた時代」**なのかもしれませんね☆

所蔵品展観覧料

一　般	１５０円　(１２０円)
高校生以下無料	

※(　)内は有料20名以上の団体料金

次の方は観覧料が**無料**です

- ■社会福祉施設に入所されている方
- ■福山市・府中市・神石高原町に住所を有する65歳以上の方（運転免許証やマイナンバーカードなど、住所・年齢が確認できるものが必要）
- ■身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を持参する方、及びその介護者1名

※開館時間は午前9時３０分から午後5時までです。
※月曜日【　　の日】は休館日です。

FUKUYAMA MUSEUM OF CALLIGRAPHY
ふくやま書道美術館
〒720-0067　福山市西町二丁目4番3号
JR福山駅福山城口(北口)から西へ約400m　TEL 084-925-9222
Webページ　www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-syodo/
電子メール　syodo@city.fukuyama.hiroshima.jp